

## 令和2年度 事業報告 総括

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が急速に拡大し始め、誰もが早期の収束を願いつつも、結局影響され続けた1年間となりました。来訪者への魅力を伝えるための情報発信や自治会・各種団体との交流、職員の能力向上に向けた研修参加は、他者との接触を控えることが感染対策になるため、それら重点目標の多くを達成することができませんでした。また行事も全て中止を決定し、作業ではJSP班の生産量が大幅に減少しました。再び感染者が増加傾向にあった期間には施設入所利用者の帰宅や外食等も禁止したことで入所利用者の方に我慢を強いることになり、ストレスを抱かせてしまいました。しかし、コロナ禍の中で施設入所支援では、支援員もいろいろ考えて工夫して集団にならないよう小単位での施設内レクレーション(おやつの調理や工作等)を実施し、新たな経験をしたことで支援力も向上したと思います。また感染対策に取り組む職員や委託業者社員全員に国から慰労金が支給されました。経営的な面でも、帰宅制限により利用率と共に福祉収入が増加しました。また、経費削減等してきましたが、行事等未実施の費用削減もあり、収支が改善するというコロナ禍の別の側面も見られました。

さつきハウス施設長の五月女信夫儀が急逝しました。あまりに突然すぎて受け入れることができず、職員・利用者の誰もがしばらくの間喪失感に包まれていました。

SEED 及び日向希望の家利用者の2名が逝去されました。日向の方は長年透析治療を受けており、SEEDの方も病気が悪化されてのことです。持病のある方は新型コロナが重症化しやすく、利用者の中にも慢性疾患を治療中の方も多くいるので、より一層健康管理に配慮した支援をしていかなければならないと感じています。

施設整備としては、さつきハウス周辺の主に渡り廊下を整備する外構工事が完成し武子地区の生活環境整備が終わりました。そして地域移行促進のため初めて法人所有のグループホームを鹿沼市日吉町に建設しました。整備には国・県の補助金や保護者会からの援助をいただきました。10名が利用できるので、通所利用者の地域移行に向けて積極的な利用に結び付けたいと思います。

日向希望の家に続き武子希望の家でも就労移行支援を廃止しましたが、就労を希望する利用者に対して就労への心構え等の勉強会の実施や企業実習の機会を提供する等して、引き続き就労支援を提供しました。

情報発信については、来訪者はほとんどいみせんでしたが、SNSのFacebookやTwitterに日常の風景や活動を積極的に掲載して発信し、来ることのできない外部の方や保護者も含め、希望の家のことを伝えようと努めてきました。

職員の採用応募や利用者の通所利用希望が少ない状況が続いており、今後対策を講じる必要性を感じています。

利用者の皆さんと楽しいことも出来ず残念な気持ちが大半を占めますが、幸い利用者も職員も新型コロナに感染することなく過ごせたことは、自粛生活の中において少しの安堵感を得ています。1日も早くこの新型コロナが終息して日常を取り戻し、利用者には笑顔が戻り、支援員の苦勞が報われる日が訪れることを望みます。